



第6週の発生動向(2005/2/7~2005/2/13)

1. 感染性胃腸炎については、減少傾向にはありますが、他の疾患に比べると依然として多い報告数となっています。**手洗いの励行など、二次感染の拡大防止対策を更に徹底することが必要です。**
2. 咽頭結膜熱については、むつ保健所管内において**警報**が続いています。

第6週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ	57	4.38	101	6.31	185	13.21	62	8.86	113	12.56	29	4.83	547	8.42	276
(60) 咽頭結膜熱			1	0.09							7	1.75	8	0.19	-2
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	1.50	36	3.27	6	0.67	2	0.40	15	2.50	4	1.00	75	1.74	±0
(62) 感染性胃腸炎	56	7.00	27	2.45	20	2.22	2	0.40	33	5.50	33	8.25	171	3.98	-65
(63) 水痘	6	0.75	7	0.64	33	3.67	6	1.20	5	0.83	2	0.50	59	1.37	-26
(64) 手足口病			7	0.64	7	0.78			4	0.67	2	0.50	20	0.47	-13
(65) 伝染性紅斑	1	0.13	2	0.18	1	0.11							4	0.09	2
(66) 突発性発しん	4	0.50	2	0.18	1	0.11			2	0.33	3	0.75	12	0.28	-15
(67) 百日咳															
(68) 風しん					2	0.22							2	0.05	1
(69) ヘルパンギーナ	2	0.25									1	0.25	3	0.07	2
(70) 麻しん(成人を除く)															
(71) 流行性耳下腺炎	2	0.25			5	0.56							7	0.16	-15
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎					3	1.50							3	0.27	3

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	基幹
青森	13	8	5	2
弘前	16	11	5	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
合計	65	43	22	11

■ は警報です。 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

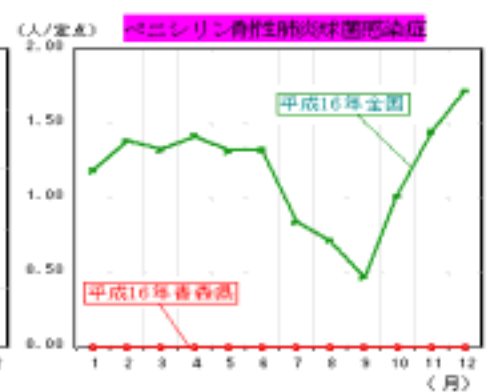
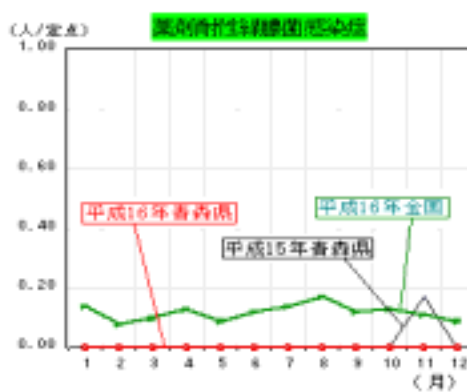
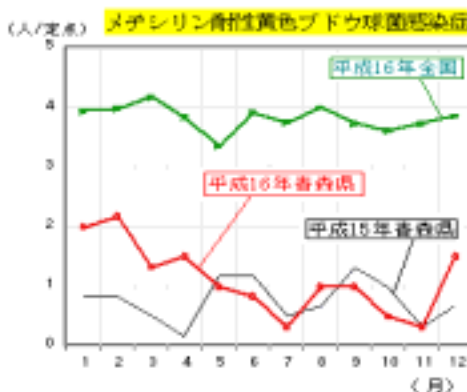
- (59) R Sウイルス感染症(五類小児科定点把握疾患) 五所川原保健所管内: 1人 (17年計 12人)
- (82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内: 2人 (17年計 16人)
- (49) クロイツフェルト・ヤコブ病(孤発型)(五類全数把握疾患) 八戸保健所管内: 1人 (17年計 1人)

病原体検出情報

平成16年12月から平成17年2月の間に、青森、弘前、五所川原地区の病原体定点における胃腸炎患者から採取した材料からノロウイルス、アデノウイルス、ロタウイルスが検出されました。

感染症の窓

月単位報告の定点把握疾患感染症



**メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症**: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌を含む黄色ブドウ球菌はヒトや動物の皮膚や消化管に常在し、通常は無害ですが、術後患者や体の弱っている免疫不全患者の深部臓器などに侵入すると肺炎や皮膚化膿症など重症感染症を引き起こすことがあります。感染経路は手指を介した接触などです。平成15年、16年ともに全国平均を下回る報告数で推移しています。

**薬剤耐性緑膿菌感染症**: 平成15年は報告数が1人、平成16年は報告がありませんでした。

**ペニシリン耐性肺炎球菌感染症**: 平成15年、16年共に報告がありませんでした。